

○我が国の観光を持続可能な形で復活させるため、令和5年、観光立国推進基本計画が閣議決定された。「持続可能な観光」が最も大きな柱になっており、令和7年度までに全国で100地域が持続可能な観光地域づくりに取り組むことが目標となっている。

○観光庁は、国際基準であるGSTC基準に即し持続可能な観光地域づくりを対外的にアピールできる「日本版持続可能な観光ガイドライン（以下「JSTS-D」という。）のロゴマーク制度を創設したが、北海道は、ロゴマーク取得が4地域にとどまっている。（令和6年4月30日現在）

○そのため、GSTC公認トレーニングとフォローアップセミナーや、ロゴマーク取得に向けた課題把握調査による検証を行い、北海道における持続可能な観光地域づくりの形成を促進することとした。

## 1. GSTC公認トレーニングの開催

実施目的	今後、持続可能な観光地域づくりの先行事例となり得る宗谷地域において、持続可能な観光の意義や国際基準（GSTC）の内容などの理解促進
実施期間	令和6年11月6日（水）～8日（金）
参加者数	18名（観光事業者、観光団体、行政など）
実施プログラム	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1日目：座学（GSTC-I（産業向け）基準の講義、ディスカッション）</li> <li>・2日目：座学（GSTC-D（地域向け）基準の講義、ディスカッション）</li> <li>・3日目：フィールドワーク（事例視察、グループワーク）</li> </ul>
実施結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「持続可能な観光」の必要性に対する参加者の認識向上</li> <li>・自社や地域での実践可能な取組の具体的なアイデアの創出</li> <li>・持続可能な観光に関心を持つ事業者間のネットワーク形成</li> </ul> 

## 2. フォローアップセミナーの開催

実施目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>・上記研修参加者の理解を深める場の提供</li> <li>・道内観光関係者に向けた「持続可能な観光地域づくり」への機運醸成</li> <li>・JSTS-Dの趣旨や内容、取得の意義の説明</li> <li>・JSTS-Dを活用した観光地域計画の作成の紹介</li> </ul>
実施日時	令和6年12月24日（火）13:30～16:00
参加対象	道内DMO、自治体、観光事業者等 参加42名（会場参加12名 オンライン参加30名）
実施プログラム	<ul style="list-style-type: none"> <li>●セミナー1：サステナブルツーリズムと国際認証</li> <li>●セミナー2：サステナブルツーリズム推進の意義と可能性</li> <li>●セミナー3：国際認証取得に向けた支援</li> <li>●セミナー4：JSTS-Dロゴマーク取得と自己診断の支援</li> </ul>
アンケート結果など	<p>◆コメントとしては、「サステナブルツーリズムと認証への理解促進」、「持続可能な観光」の取組への関心・意欲の高まりが多かった。</p> <p>◆取り組む上での課題としては、 「関係者への取組の説明が困難」や「人員不足」が多く挙げられたほか、 「国際認証の仕組み、難易度、費用など分かりやすい情報の不足」や「認証会社やコンサルティング等への費用の捻出困難」も課題と認識されている。</p> 

## 3. 課題把握に向けた調査

目的	道内各地域での課題やJSTS-Dロゴマークの取得に関してハードルとなっている要因の把握を行う。		
調査対象地域 「（※）」は調査開始時点のロゴマーク取得地域（計15地域）	①GSTC公認トレーニング開催地域	ニセコ町（※）、釧路市、弟子屈町（※）、富良野市（※）、美瑛町、稚内市、札幌市（※）	
	②①以外のロゴマーク取得地域	小樽市（※）	
	③その他の地域	美瑛市、根室市、七飯町、利尻町、利尻富士町、礼文町、ニセコリゾート観光協会	
調査期間	令和6年11月20日（木）～令和7年1月10日（金）		
調査結果及び分析	主な質問項目	JSTS-D取得済み地域（5地域）	JSTS-D未取得地域（10地域）
	①持続可能な観光の取組状況	一般的な温室効果ガス削減などの取組に加え、環境への影響に関する地域マネジメントの取組を上げる地域が多い	一般的な環境に配慮した旅行商品の造成の取組にとどまっている傾向
	②ロゴマーク取得への理解	概ね理解している（80%）	ロゴマークの認知度が50%
	③GSTC公認トレーニングの内容	「サステナブルツーリズムの基礎を学ぶことができた」などの回答に集まり高評価	
	④国際認証の取得への関心・課題	仕組みや難易度が分からないため、情報・人員の不足等で取り組んでいない	「関心がない」「分からない」といった回答が多く検討する段階に至っていない地域が多い
⑤ロゴマーク取得への課題・メリット（未取得地域のみ）	-	計画への位置づけ、マンパワー等に課題。補助申請への加算や補助率高上げにメリットの認識	
考察	ゼロカーボンシティや地球温暖化対策など、サステナブルな取組を行っているが、取得済み地域と未取得地域のサステナブルツーリズムの意識や理解度の違いから、観光政策としての位置づけや他の観光政策との間の優先度に違いがあるのではないかと考えられる		

## 4. 事業の総括と提言等

【定量的な効果】 JSTS-Dシンボルマーク取得地域の増加数4地域（事業開始時点4地域→令和7年2月末時点8地域）

【1～3の取組から浮かび上がった課題】

課題①	「持続可能な観光」の認知度不足
課題②	GSTC基準やJSTS-D取得手順の認知度不足
課題③	人的・財政的リソースの不足
課題④	ロゴマーク取得のインセンティブ不足
課題⑤	住民への普及啓発不足

【JSTS-Dの取得などを促進するための主な提言】

認知度向上	専門家派遣、関係者の意識向上に向けたプログラムの提供
	地域住民への普及活動
	地域住民参加型の観光政策の推進
人的・財政的支援など	サステナビリティ・コーディネーターの育成
	環境にやさしい持続可能な旅行商品の開発支援
	成功事例の共有と横展開
メリット創出	JSTS-D取得等に係るインセンティブの拡大

### 今後の展望

- 道内での持続可能な観光地域づくりを進めるには、JSTS-Dの普及が第一歩。
- こうした取組の深化により世界基準であるGSTC-D認証へ繋げる。
- 認証取得の取組をベースに環境負荷の低減と経済活動の調和を取った経済活性化を図る。
- まとめとして、北海道のアドバンテージを最大限生かした「持続可能な観光の先進地」を目指すべき。